

『効果の見える治水事業』  
愛媛県 久万川の鉄道橋・道路橋緊急対策事業



愛媛県中予地方局建設部長 さなだ のりたか  
真田 憲高

■事業の概要

二級河川大川の支川である久万川は、愛媛県松山市衣山に源を発し、伊予灘に注ぐ延長5.65km、流域面積7.8km<sup>2</sup>の中小河川であり、平坦地を流れるため、河床勾配が緩くその線形は蛇行しています。

久万川では昭和18年の集中豪雨による被害（床上浸水20戸、床下浸水500戸、浸水面積43.0ha）を始め、浸水被害が度々発生しています。これらの浸水被害の解消を目的とし

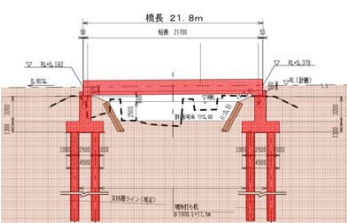


て、愛媛県では、昭和52年度から現在まで国庫補助事業の広域河川改修事業を活用し、河口から支川新川との合流点までの3.28km間の整備を行っています。

しかしながら、流域内は宅地開発が進み、それに伴う雨水貯留機能の減少による河川への流入量が増大することにより、同じ降雨でも思わぬ出水となることも少なくない状況となっており、近年各地で頻発しているゲリラ豪雨による浸水被害の発生も懸念されています。

特に流下能力が著しく不足している河口から約1.8km上流にある鉄道橋（予讃線伊予和気・三津浜間久万川橋りょう）付近については、平成19年度から国庫補助の鉄道橋・道路橋緊急対策事業を活用して鉄道橋を架け替えることにより、流下に支障となっている橋脚等の撤去を行い、流下に必要な断面を確保しました。

なお、工事に当っては、列車運行に支障がないよう、既設線路の横に新たに線路を造る別線方式を採用し、トラブルを生じることもなく、円滑な事業推進ができました。

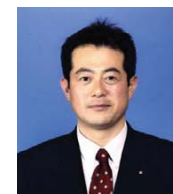


これにより、治水上最大のネックとなっていた区間が解消されたことから、浸水被害が軽減されるものと期待されています。

今後、広域河川改修事業の整備を引き続き進め、地域の安全・安心な暮らしの確保と地域の発展のため、早期完成を図って参ります。



再び  
■ 傍示川と坊っちゃんスタジアム～オールスターゲームagain～



松山市長 野志 かつひと

『心をひとつに。力をひとつに。』今年のプロ野球オールスターゲームのテーマです。日本中のスポーツファンの「夢の球宴」として、また、被災地に長く心を寄せ、被災者の方々とともに復興への道を歩む野球界の思いを表現しています。

その第2戦が改装された松山・坊っちゃんスタジアムで7月21日に開催されます。22万人の署名を通じて市民の皆さんの熱烈な気持ちを受け止めていただいた前回から10年、再び松山で開催されることを喜ばしく思うと同時に、野球王国の名に恥じないよう、皆様と一緒に、この素晴らしいイベントを成功に導きたいと思っています。



さて、そのスタジアムのある松山中央公園の中を東西に流れる川が一級河川重信川水系傍示川です。この傍示川は松山市南部の石手川と重信川に挟まれた地域に位置し、近年の急速な都市化に伴い浸水被害が増大しているため、松山市が昭和61年に準用河川に指定し、国の補助事業で浸水被害を解消すべく改修を進めてきております。現在、延長1,955mのうち1,700mが改修済みであり、市民の皆様が「誇れる」まちの安全・安心で笑顔になれるよう災害に強いまちを目指し、今後も継続的に事業を実施してまいります。

中央公園内の河川計画は、公園計画に合わせて策定しました。護岸は、自然素材の中で最も堅固で重く、自然景観の中に溶け込みやすい自然石（1.0t内外）を使った巨石積（張）護岸や緑化ブロック護岸とし、その上部は張芝を施し、水生昆虫や水際に住む小動物にとって良好な生息空間となるよう緑豊かな河川環境の創造に努めるとともに、既存の水路で使われていた自然石も護岸の一部として再利用し、コスト縮減を図りました。また、済美平成中等教育学校の生徒さんが、最近行った調査によりますと、坊っちゃんスタジアムの北側の植物群落周辺でドジョウ、スジエビ、メダカなどが確認されているとともに、上流未改修のコンクリート護岸に比べると水質が良かったという結果が出ています。この結果からみて、松山中央公園整備事業の当初の目的の一つであった「緑の拠点を創出し都市環境機能を充実させる」ことに少しずつ貢献できていると思っています。

前回のオールスターゲームは、4対2でオールパシフィックが勝ちました。今年はどうでしょうか。今から楽しみです。皆様のご来場を心からお待ち申し上げます。



傍示川と坊っちゃんスタジアム



植物群落